

令和3年度 事業計画(案)

本年度は、ウィズコロナの状況下で観光客や従事する職員の安全を第一に考えた感染防止策を徹底しながら、各種事業を推進します。

弘前四大まつりは、まつり全体で統一した感染防止対策を講じるため、弘前市や関係団体と連携を図り、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を適時に更新して、まつり運営や関係事業を実施します。

「弘前さくらまつり」は、新たな第一歩となる101回目の開催を市民や関係団体と連携を図り、感染防止対策を徹底して開催します。若年層を中心に大きな話題と効果をもたらした、公式応援キャラクター「桜ミク」は、本年度も継続してプロモーションや各種事業を展開し、まつりを盛り上げます。

2022年文献登場300年を迎える「弘前ねぶたまつり」は、実行委員会に参画し、各種記念事業の実施に向けた検討を行います。

「巡るたび、出会う旅。東北」をキャッチコピーに4月から9月までのロングランで開催される大型観光キャンペーン「東北デスティネーションキャンペーン」(以下、「東北DC」という。)やG・O・T・Oトラベル事業の延長に合わせた、国内旅行者向けの情報発信を強化します。

昨年度から好評実施中の「食べて泊まって弘前応援キャンペーン」は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した弘前市からの受託事業として継続的に実施し、当市の本格的な観光需要喚起と経済回復を図ります。

6月に公開されるオール津軽ロケを敢行した映画「いとみち」を観光面で活用し、作品に登場する風景や食などをPRするロケツーリズムを展開します。

夏頃に世界文化遺産登録実現を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の県内関係施設や話題の「弘前忍者屋敷」との連携による情報発信を行います。

特別な会場を意味する「ユニークベニュー」に取組み、弘前ならではの歴史的建造物を活用した展示会やイベントを開催します。

「持続可能な事業運営と組織づくり」をビジョンに、これまで推進してきた街歩きや体験型メニューは、観光客との関係性づくりを意識したプログラム開発を行う他、これまで当市が推進してきた、市民も観光客も共に楽しむ感動と交流のステージ「弘前感交劇場」の理念に基づいた事業を推進するとともに稼ぐ観光の仕組みづくりに取組みます。

また、持続可能な事業運営のための組織体制の構築と職員の働きやすい環境整備に取り組めます。

以上を柱に各種事業を展開し、当地の観光振興に努めます。施策については、当協会内に設置する4部会(総務検討部会、まつり検討部会、地域活性化検討部会、誘客推進検討部会)において検討し、4つの公益目的事業、4つの収益事業を実施し、組織の健全な運営を推進します。

【部会活動内容】

役員を部会委員として4部会を編成し、以下の弘前の観光課題について検討を重ね、事業の推進を図ります。

○総務検討部会

- 1) 公益法人としての制度及び経理面等からの事業環境の充実について
- 2) 当協会会員数の増強について
- 3) 会員のレベルアップにつながるセミナー、講演会の開催について
- 4) サポーターズクラブさくらの見直しについて
- 5) 会議等のオンライン化の推進について

○まつり検討部会

- 1) ウィズコロナ状況下でのまつりの在り方とアフターコロナ時代に向けて今できることについて
- 2) 「さくら栈敷」プログラム内容の再検討とPR強化策について
- 3) 「中濠観光舟」地元船頭育成による自立可能な事業内容の検討について
- 4) 2022年ねぷたまつり文献登場300年に向けた当協会の取り組みについて
- 5) 地域の小規模イベント開催を可能にするコロナ対策について

○地域活性化検討部会

- 1) 進化する情報発信ツール活用の調査・研究について
- 2) 観光コンテンツの情報収集と誘客施策の検討による事業提案について
- 3) 「りんご」を活用した地域活性化施策について
- 4) 「観光人力車」事業定着と推進への協力について
- 5) 「津軽ひろさき検定」の知見を活かした地域教育活動への協力について

○誘客推進検討部会

- 1) 「ひろさきまるごと観光クーポン」の電子化による利用促進について
- 2) ウィズコロナ状況下での教育旅行の現状調査及び今後の誘致について
- 3) アフターコロナ時代を見据え、観光客を「交流人口」から「関係人口」へシフトするための取り組みや長期滞在でゆっくり楽しんでもらうプログラムの開発、ワーケーションの調査・研究について

【公益目的事業】 ※は新規又は強化事業を表します。

公 1 伝統行事等の振興事業 令和 3 年度 事業予算 22,642,000 円

四大まつり全体で統一した感染防止対策を講じるため、弘前市や関係団体と連携を図り、「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を適時に更新してまつり運営や関係事業を実施します。また、まつり事業の現場会計へのキャッシュレスシステム導入を検討します。

さくらまつり運営事業 事業費計 12,856,000 円

観桜客おもてなし事業

- ※①新たな第一歩となる 101 回目のさくらまつり開催を市民や関係団体と連携を図り、感染防止対策を徹底して開催します。
- ※②若年層に人気のさくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」を活用したプロモーションやスタンプラリーなどの参加型イベントを展開します。
- ③本丸において花見客用にゴザの貸し出しを行います。
- ④西濠で水上から桜を楽しんでいただくため、遊覧ボートの貸出を行います。
- ※⑤船頭付きの中濠観光舟は、旅行会社と連携した早朝貸切運航を実験的にを行い、宿泊客の増加につなげます。また、自立運営を目指し、地元船頭の養成を行います。
- ⑥観光客の利便性を図る目的で、駅前で手荷物預かりを実施します。
- ※⑦「さくら栈敷」「抹茶接待」事業は、マスクを外して飲食を伴う事業で、感染リスクが高いことから、本年度の実施は見送り、令和 4 年度以降のウィズコロナ状況下での事業の進め方について検討をします。
- ※⑧広告宣伝事業は、コロナ禍での経済状況の低迷による協賛募集のリスクや景観の問題を考慮して新たな照明の在り方について関係団体と検討していきます。



伝統芸能推進事業

- ①まつりの賑わい創出と郷土芸能の保存と継承を目的に四の丸演芸場において郷土芸能を披露します。(弘前市補助事業)

ねぶたまつり運営事業 事業費計 7,236,000 円

弘前ねぶた保存奨励事業

- ①弘前ねぶたの歴史・伝統・文化の保存と振興、製作技術の向上を目的に弘前ねぶたコンテストを行います。
- ②ねぶたまつりの安全・安心な運行を目的に運営委員会の一員として、運行管理等を行います。
- ※③2022年文献登場300年を迎えるねぶたまつりは、「弘前ねぶた合同運行300年祭実行委員会」に参画し、各種記念事業の実施に向けた検討をします。



伝統行事推進支援事業

- ①弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪燈籠まつり等の運営委員会に参画し、運営に努めます。
- ※②弘前城菊と紅葉まつりは、菊人形に代わる新たな取り組み「フラワーアート」を推進します。
- ③弘前市内で行われる伝統行事やまつり、イベントへの支援協力を行います。

公 2 観光施設管理運営事業 令和 3 年度 事業予算 108,903,000 円

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、観光客が安全安心に施設を利用できるように努めます。また、アフターコロナ時代を見据え、外国人観光客受入れ態勢整備を少しずつ進めます。

観光施設管理運営事業

事業費計 108,223,000 円

弘前市観光案内所運営事業(弘前市委託事業)

- ①弘前を中心に津軽広域の観光、宿泊、交通、飲食、イベント等の情報を観光客に提供します。
- ②アフターコロナ時代の外国人観光客の受入れ態勢整備の一環として音声翻訳機を活用した案内の充実と語学研修等を実施し、職員のレベルアップを図ります。
- ③冬期間の観光客の利便を図るために長靴や滑り止めの貸し出しを行います。
- ④東北地方の観光客誘致を目的に、東北観光案内所ネットワーク化事業に参画して広域観光情報の共有を図ります。
- ※⑤東北DCの周遊促進施策の一つ「東北デジタルクーポン」に参画し、施設の利用促進を図ります。



弘前市立観光館管理運営事業(弘前市指定管理事業)

- ①弘前市立観光館、山車展示館等の管理運営の他、貸館業務を行います。
- ②津軽広域観光の拠点施設として観光客へ観光、宿泊、交通、飲食等の情報提供を行います。
- ③弘前ねぶたの伝承を目的にねぶた囃子等の講習会を実施します。
また、弘前の風物についての短歌、俳句、川柳の投稿ポスト事業を実施します。
- ④アフターコロナ時代の外国人観光客の受入れ態勢整備の一環として音声翻訳機を活用した案内の充実と語学研修等を実施し、職員のレベルアップを図ります。
- ⑤冬期間の来館者誘客のため、追手門広場の樹木にイルミネーション装飾をします。
- ⑥季節毎に弘前のまつり等にちなんだ飾り付けを行い、館内の雰囲気づくりをします。
- ⑦職員製作のパネル展示で、津軽地域のまつりや文化等について情報発信を行います。
- ※⑧東北DCの周遊促進施策の一つ「東北デジタルクーポン」に参画し、施設の利用促進を図ります。



弘前市りんご公園管理運営事業(弘前市指定管理事業)

- ①りんご公園への誘客を図るため、りんごをテーマにした企画展やイベントを開催する他、冬期間の遊び場の提供を目的にしたイベント「ウインターフェスティバル」を開催します。

- ②りんご生産に対する理解の向上やりんご産業の振興を図るため、農作業体験や園地案内業務を充実させ魅力ある公園づくりに努めます。
- ③りんご生産者の技術向上や活用法などの取得を目的にりんご栽培講座を開催します。
- ④アフターコロナ時代の外国人観光客の受入れ態勢整備の一環として音声翻訳機を活用した案内の充実と語学研修等を実施し、職員のレベルアップを図ります。
- ※⑤りんご公園へスムーズに来園してもらうため、市内主要施設と連携し、公共交通機関に関する情報発信に努めます。また、新たに弘前ハイヤー協会と連携し実施する弘前駅とりんご公園を結ぶ「定額タクシープラン」の情報発信も行います。

弘前市まちなか情報センター管理運営事業(弘前市指定管理事業)

- ①情報、交流、休息の3つの機能を備えた施設として、市民や観光客に利用をしていただけるよう、管理運営とスタジオ室、交流室の貸館業務を行います。
- ②アフターコロナ時代の外国人観光客の受入れ態勢整備の一環として音声翻訳機を活用した案内の充実と語学研修等を実施し、職員のレベルアップを図ります。
- ③弘前市及び津軽地域のまつりやイベント等のポスター掲示や市内の店舗情報チラシを設置します。また、インターネット弘前情報総合サイトを通じて情報発信を行います。
- ④さくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」のミュージアムを継続して展開し、さくらまつりの盛り上げと施設の賑わいを創出します。
- ⑤「弘前れんが倉庫美術館」の建物や企画展示を紹介するコーナーを継続して設置し、まちなかのアート情報の収集と情報発信をします。



指定管理施設自主事業 事業費計 680,000 円

弘前市立観光館自主事業

- ①冬期間の観光客の利便を図るために長靴や滑り止めの貸し出しを行います。

弘前市りんご公園自主事業

- ①「りんご」をキーワードにした食や工芸品等の製作体験イベント等を開催します。
- ②津軽語り部の会の協力のもと、旧農家住宅において津軽弁による「津軽昔語り」を開催します。
- ③駐車場や園地を活用し、りんご等の農業生産者と来園者の交流の場を創出するため、「りんごトラック市」等を開催します。

公3観光振興事業 令和3年度 事業予算 58,961,000 円

東北DCやG・O・T・Oトラベル事業の延長、食べて泊まって弘前応援キャンペーンに合わせた国内旅行者向けの情報発信を強化します。また、津軽が舞台の映画「いとみち」を活用したロケツーリズムの展開やユニークベニューの取組み、コンベンション開催支援による地域経済の活性化を目指します。

観光推進事業 及び 誘客推進事業 事業費計 53,366,000 円

観光推進事業

- ① 観光関係団体等が行う事業に協力や支援を行い、観光事業を推進します。
- ②「津軽ダム」の観光活用について津軽ダム水源地域ビジョン推進協議会の事業展開に協力をします。
- ※③貸自転車(サイクルネット)事業は、JR東日本の「TOHOKU MaaS^{*1}」を活用した電子化による貸出予約を行い、観光地を効率良くめぐる二次交通手段として利用促進を図ります。(弘前市補助事業)
- ④弘前観光ボランティアガイドの会等の観光ガイド団体への協力支援と観光ガイドの養成を行います。(弘前市委託事業)
- ※⑤北海道道央地区からの教育旅行自主研修誘致のため、弘前市と連携してガイド付きのモデルコース設定や受入れ態勢の整備を行います。
- ※⑥東北DCに合わせて旅行会社や各種メディアと連携をして、弘前の旬の観光情報を発信します。
- ※⑦ひろさきまるごと観光クーポンは、JR東日本の「TOHOKU MaaS」システムによる電子化を行い、利用促進を図ります。(弘前市補助事業)
- ※⑧新型コロナウイルス感染症の影響で観光業界が大打撃を受ける中、当市の本格的な観光需要喚起と経済回復を図るため、「食べて泊まって弘前応援キャンペーン」を実施します。(弘前市委託事業)
- ⑨民間の観光人力車運営会社に協力し、事業の定着と推進を図ります。
- ⑩サポーターズクラブさくら会員へ定期的に観光や物産等の情報提供をする他、内容の見直しを図ります。
- ※⑪6月に公開されるオール津軽ロケを敢行した映画「いとみち」に登場する風景や食などを観光面でPRするロケツーリズムを実施します。
また、首都圏映画館でのプロモーションを実施します。



*1 TOHOKU MaaS (トウホク・マース) とは

「MaaS」は「モビリティ・アズ・ア・サービス」の略語で、JR東日本が2021年4月～9月に実施する東北デスティネーションキャンペーンにあわせて展開する観光地の検索や交通デジタルチケット等の販売など、旅行にあたって必要となる各種サービスをスマートフォン1つで行えるサービス。

誘客推進事業

- ①ウェブサイトのアクセス解析で観光客の動向・興味・関心を調査しながら、インターネットを効率よく活用して観光情報の提供を行います。また、当協会が管理運営する施設の情報発信力の強化を図り、誘客に繋がります。
- ※②世界文化遺産登録のタイミングに合わせて当協会のHPやSNSを活用して県内の縄文遺跡群の紹介を行う他、世界自然遺産白神山地の情報発信についても強化します。
- ③弘前市インバウンド推進協議会に参画し、アフターコロナ時代を見据えた外国人観光客誘致活動を少しずつ進めます。
- ④友好都市の北海道斜里町、群馬県太田市と交流を深めます。



コンベンション誘致事業 事業費計 5,595,000円

コンベンション誘致活動事業

- ①弘前市内大学および企業、各種関係団体への訪問を行い学会・大会開催の意向調査、開催支援内容のPRに努めます。
- ②県内コンベンション推進団体と国際ミーティングエキスポ(IME)へ共同出展をする他、首都圏の学会事務局等を訪問し誘致活動を行います。

- ③東北地区コンベンション推進協議会に参画し首都圏で開催される学会主催者を対象にした合同誘致商談会で弘前市開催の学会の誘致を図ります。
- ④世界自然遺産「白神山地」や弘前ならではの「街歩き」等を組み込んだアフターコンベンションの提案を行います。
- ※⑤弘前ならではの歴史的建造物等で会議やレセプションを開催するユニークベニューの取り組みとして（公社）落語芸術協会と連携して歴史的建造物を会場にした「寄席イベント」を実施します。
- ※⑥市民に向けた「コンベンション」や「ユニークベニュー」についての認知度を高める講演会やイベントを開催します。

コンベンション開催支援事業

- ①青森県MICE^{*2}開催助成金交付の申請業務等の取次を行います。
- ※②弘前市小規模コンベンション助成金制度の見直しを行い、制度の利用促進を図ります。
（弘前市補助事業）
- ③津軽地域で開催されるコンベンションに対して開催支援を行います。

*2 MICE（マイス）とは

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多く、日本でもインバウンド振興策の一環として、国や自治体により誘致活動が盛んに行なわれています。

公4 地域活性化事業 令和3年度 事業予算 8,750,000円

弘前市とその周辺地域に関する歴史、観光、文化等の知識を習得するための関連書籍の販売を行います。また、2022年文献登場300年を迎えるねぷたまつりへ向けて、「弘前ねぷた本」の販売を強化します。

地域活性化推進事業 事業費計 8,750,000円

津軽ひろさき検定事業

- ※①東北新幹線新青森駅開業に向けた機運醸成を図るため平成20年度にスタートした「津軽ひろさき検定事業」は事業を終了し、本年度からは、検定事業で得た知見・ノウハウを活かし、市や各種団体が実施する地域教育活動に協力するとともに、代替事業として、ボランティアガイド養成事業の強化や座学とツアーで地域を学ぶ「大人の修学旅行（仮称）」の実施により、おもてなしの意識向上や弘前の魅力再発見の機会提供を図ります。

地域人材育成事業

- ①地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、津軽地域に点在する観光資源を学び郷土愛を育む研修会等を行い、地域を牽引する人材の資質向上を図ります。

出版事業

- ①弘前の歴史や文化並びに地元が輩出した偉人等に関する知識を習得してもらい、郷土に対する誇りを持って、その良さを多くの人々に伝えることができるような環境づくりを目的に「ひろさき読解本」等の書籍の販売を行います。
- ※②101回目のさくらまつりを盛り上げるため、公式応援キャラクター「桜ミク」と弘前の観光地や桜の名所をめぐるガイドブックを編集し販売を行います。
- ③弘前市と共同で「ガイドマップひろさき」などの観光関連資料を制作します。
- ※④2022年文献登場300年を迎えるねぷたまつりへ向けて、弘前ねぷたの歴史への理解と地域文化の保存継承、振興に寄与することを目的に「弘前ねぷた本」の販売を強化します。



【収益事業】

収1まつり事業	令和3年度	収入予算額	12,762,000円
		支出予算額	6,125,000円

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、まつり開催時の観光客の便宜を図るため、臨時駐車場の開設や有料観覧席の設置を行います。また、イベント用機材の貸し出しを行います。

まつり客用レンタル事業

収入予算	12,762,000円
事業費計	6,125,000円

臨時駐車場事業

- ①さくらまつり期間中の観光客の利便性を図ることを目的に、弘前公園付近の公共施設駐車スペースや空き地等を活用した臨時駐車場を運営します。

臨時観覧席事業

- ①弘前ねぷたまつりを堪能して頂くため、運行コースに有料観覧席を設置します。



その他のレンタル事業

- ①イベント用品としてテントやテーブル、イス等のレンタルを行います。

収 2 喫茶・売店運営事業 令和3年度 収入予算額 110,406,000円

支出予算額 97,316,000円

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、管理・運営する観光施設において喫茶並びに物販コーナーを設け、観光客に休息の場の提供と地元品のPR及び販売を行い、利便性の向上を図ります。また、各施設において季節ごとの観光情報の提供とイベントの開催を行い誘客に努めます。

指定管理施設自主事業

収入予算 8,430,000円

事業費計 6,538,000円

弘前市立観光館自主事業

- ① 追手門広場の有効活用と誘客のため、フリースタイルマーケットを実施します。
- ② 自動販売機の設置やイベント等のチケット販売をして利用者の利便を図ります。

弘前市まちなか情報センター自主事業

- ① 中心市街地の賑わい創出や施設への誘客のため、自主イベントの開催や土手町で行われるイベントに参画します。
- ② 冬期間の観光客の利便を図るために長靴や滑り止めの貸し出しを行います。
- ③ 軽食喫茶や売店、自動販売機を設置して利用者の利便を図ります。
- ④ さくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」ミュージアムショップとして、継続して桜ミクグッズを販売します。



喫茶・売店事業

収入予算 101,976,000円

事業費計 90,778,000円

弘前市りんご公園売店事業

- ① りんごをテーマにしたレストランメニューやオリジナル物販商品の開発販売をします。
 - ② りんごにこだわった店舗としての認識を深めるため、弘前りんご及びりんごに特化した食品・雑貨類・工芸品等の販売を行う他、地域性のある商品の販売を行います。
 - ③ 当公園で開催する屋外イベント等に、来園者の利便性向上のため、野外売店を設置します。
 - ④ さくらまつりの盛り上げを図るため、さくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」グッズを販売します。
- ※⑤ 10月から完全移行する免税販売手続きの電子化に対応し、レジシステムなどの受入れ整備を行います。



藤田記念庭園喫茶売店事業

大正浪漫喫茶室

- ※①大手出版社（パルコ出版）から発行される「弘前アップルパイレシピBOOK」の発売に合わせ、アップルパイに関するメニューの充実や関連グッズの販売促進に努めます。
- ②SNSを活用した情報発信や、藤田記念庭園内で開催されるイベントへの支援協力を行います。

クラフト&和カフェ匠館

- ①看板メニューとして定着してきたかき氷は、オリジナリティのあるメニュー開発をすることで話題を作り、誘客に繋がります。
- ②津軽地方の工芸品を取り扱う観光拠点を目指し、幅広い世代の方々に魅力を知ってもらえるよう情報発信に努めるとともに館内で開催されるクラフト展への支援協力を行います。



収3ふるさと商品販売事業 令和3年度 収入予算額 8,263,000円
支出予算額 4,700,000円

弘前の観光素材やキャラクター、旬な話題をモチーフにした新しい商品開発や各種イベントなどでの地域特産品の出張販売を行います。

観光商品宣伝販売事業

収入予算 8,263,000円
事業費計 4,700,000円

観光商品開発販売事業

- ①各地のまつりやイベント等で、地場産品を中心に物産の出張販売を行います。
- ②さくらまつり公式応援キャラクター「桜ミク」や弘前市マスコットキャラクター「たか丸くん」のコラボ商品など、弘前の観光をモチーフとした商品の開発と販売を行います。
- ※③2022年文献登場300年を迎えるねぷたまつりの機運醸成に向けたオリジナル商品の開発と販売を行います。
- ※④青森大学忍者部や弘前忍者屋敷の関係者と連携して、弘前藩忍者「早道之者（はやみちのもの）」をキャラクター化したグッズの開発と販売を行います。
- ※⑤パルコ出版から発行される「弘前アップルパイレシピBOOK」の発売に合わせ、青森県内の書店などでのアップルパイ関連グッズの販売促進を行います。

収 4 旅行業運営事業 令和3年度 収入予算額 9,998,000 円

支出予算額 9,144,000 円

東北DCや「北海道・北東北の縄文遺跡群」など旬な話題をテーマにした着地型旅行商品の造成、販売を行います。また、地域住民も観光客もすべての人々が共感できる感動と交流のステージ「弘前感交劇場」の理念に基づき、観光客との関係性づくりを意識した体験型メニューのプログラム開発に取り組みます。

旅行業運営事業

収入予算 9,998,000 円

事業費計 9,144,000 円

着地型旅行商品企画販売事業

- ①個人や小グループの旅行客を対象としたバラエティー豊かな「津軽まちあるき」ツアーの造成・企画販売を行います。
- ※②夏頃に世界文化遺産登録実現を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」や弘前忍者屋敷の公開、人気ガイドと歩くまちあるきなど、旬な話題をテーマにした内容のツアーを定期的に企画販売します。
- ※③弘前の魅力を再発見することを目的に始まった「津軽ひろさき検定」の代替として座学とツアーで地域を学ぶ「大人の修学旅行（仮称）」をテーマごとにシリーズで実施します。



旅行業事業

- ①各種イベントやツアー企画並びにコンベンション参加者等へ旅行手配業務を行います。
- ②津軽地域のアクティブラーニング教育旅行プログラムを再検討し、修学旅行や研修旅行等の誘致を行います。
- ※③東北DCに関連した旅行商品の手配業務を行います。

当協会が参画し事務局業務を行っている関係団体

- 1) 弘前ねぶた保存会
重要無形民俗文化財弘前ねぶたの歴史と伝統を保存継承する会です。
- 2) 津軽情っ張り大太鼓保存後援会
津軽情っ張り大太鼓の観光需要としての活用と保存並びに弘前ねぶた囃子を保存継承するための後援会です。
- 3) 弘前城菊と紅葉まつり運営委員会
菊文化の伝承と緑化事業の促進を目的に、子供からお年寄りまで楽しめる演出をするほか、イベントを実施し効果的運用を図る委員会です。
- 4) 津軽地域観光団体事務局連絡会議
津軽地域と秋田県北地域が連携して、より効果的に誘客することとお客様の満足度を高めることで、継続的な交流人口の増加を図り、地域発展に寄与する会です。
- 5) 弘前駅自由通路等にぎわい創出事業実行委員会
弘前駅自由通路等において賑わいを創出する事業として各種イベントや弘前駅及び弘前駅前の歓迎装飾を実施し、誘客と観光振興を図ることを目的とする委員会です。
- 6) 弘前フィルムコミッション実行委員会
映画やテレビドラマ等のロケーション撮影の誘致支援を行い、作品を通して弘前の魅力の発信やイメージアップを図る委員会です。
- 7) 津軽まちあるき観光推進実行委員会
「まちあるき観光」を通じ、津軽地域の観光資源の掘り起こしと活用、周遊観光を促す仕組みづくり、広域連携を行う委員会です。
- 8) 弘前地区日韓親善協会
日韓両国民の友好親善、経済協力、文化交流の促進を通じて両国の平和と繁栄に寄与する会です。
- 9) 弘前市・斜里町友好交流の会
賛同する市民をもって構成し、友好都市斜里町と各種交流行事を行い、一層の交流を深める会です。